

有限会社さかもと園芸

※2018年3月現在

代表者名	坂本 佳子	資本金	10 百万円
設立年	1989 年 8 月 1 日	売上高	66 百万円 (2016 年 7 月期)
事業内容	生産 (アジサイ、シクラメン)、 育種	経営規模	生産施設 8,300㎡
従事者数	12 人 (うち女性 9 人。女性内訳：役員 2 人、常勤パート 7 人)		
女性活躍 支援	[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援] 短時間勤務制度等の措置、家族経営協定締結 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係 (休憩室・屋内・野外トイレ)、重労働等の業務改善		



群馬県桐生市
黒保根町

経営概況

有限会社さかもと園芸は、埼玉県出身の坂本正次氏が大学で園芸学を学んだ後、花き栽培に適した標高550mの準高冷地である群馬県勢多郡黒保根村（現在の桐生市黒保根町）へ夫婦で移住し、1975年に花き栽培と育種を開始した。企業的な農業経営を目指し、年間を通じた完全雇用実現のため、アジサイとシクラメンの栽培に特化した長期栽培体系を確立し、1989年に法人を設立した。

正次氏はアジサイとシクラメンの品種改良に力を注いで多くの新品種を生み出した。なかでも日

本らしい桜色のアジサイである「ミセスクミコ」は、アジサイの国内登録第1号品種となった。また、花のオリンピックと称され、オランダで10年に1度開かれる世界最大の国際園芸博覧会「フロリアード」において、1992年と2002年にグランプリ（金賞）を受賞するなど、正次氏が育成した品種は国際的にも評価が高く、アジサイブームを巻き起こした国内屈指の育種家と評されている。

1. 経営者の理念・意識改革

2007年に正次氏が大病を患ったこともあり、2008年に実娘の佳子氏夫妻が就農。技術をはじめ経営手法を徐々に受け継ぎ、2017年10月に佳子氏が経営移譲を受けて代表に就任した。現在は、佳子氏の夫であるラオス出身のティームチャイ氏が栽培を、佳子氏が取引先との交渉や出荷準備を担っている。

ティームチャイ氏も積極的な品種育成に取り組み、シクラメンの美しさを競う2013年の全国花卉品評会鉢物部門において、「ウインク」が最高



賞の農林水産大臣賞を受賞。また、2014年には咲いているうちに色と形を変えるアジサイの新品種「KEIKO」の育成に成功し、新品種コンテストのジャパンフラワーセレクションで最優秀賞を受賞するなど、先代の高い技術をしっかりと継承している。

また、母の日に向けたアジサイをはじめ、市場からの先行注文が多く割合を占めており、納期に合わせて顧客の求める花をベストな状態で出荷するために、アメリカの大学院でコンピューターエンジニアリングを専攻したティアムチャイ氏が、業務管理や出荷時期をコンピューターで管理をしている。ハウス内にはモニターを設置し、インターネット上でいつでも栽培状況が見られるようにして、時代の流れに沿った取り組みも行っている。

2. 女性活躍経営体に至る背景

先代夫婦が移住当時から地域住民と良好な関係を築き、1974年から近隣の主婦層をパートとして雇うことができている。山間地域では働く場所が少なく、市街地へ通勤するにも車で30分以上必要という状況から、労働時間が限られる子育て期間中の主婦層に就業の場を提供した同社は、行政等から高い評価を受けている。鉢物生産は手先の器用さと繊細さが求められるため、女性を雇用することが有効である。

3. 女性が働きやすい職場環境づくり

先代の時から育児・介護を抱える従業員が多かったため、就業規則で産前産後休業や育児休業、介護休業について定めている他、子育て中の従業員のために早出・遅出の時間帯を設けて勤務時間に融通性を持たせるなど、働きやすい職場環境が整備されている。短時間勤務制度は主に子育て中の女性たちが利用する他、親の病院通いに付き添

いが必要な従業員が昼食時間を挟んで数時間抜けることもできるなど、従業員の都合に合わせた勤務を可能にしている。また、2児の母であり育児にも奮闘している佳子氏自身が、“夫婦共にきちんと休みを取りたい”という意向から、日曜祭日を原則休日とし、従業員が家族と過ごせるような体制への配慮をしている。

従業員は採用後、作業全般ができるように技術を学ばせているが、シクラメンの場合は葉の向きを整えて花を中央に寄せるような細かい作業もあるため、佳子氏が各自の能力や性格、個性を活かした業務分担を考えてローテーションを組み、作業効率の向上にも努めている。また、繁忙期はシルバー人材センターを利用するなど働きやすい環境づくりに努めてきたため、ほとんどの従業員が10年以上勤めるなど定着率が高い。その結果、長年勤務している方の娘も加わるなど、次世代の従業員も育っている。

その他、ティアムチャイ氏が「極力作業を楽に行う」という方針のため、労働環境の改善に取り組み、従来は手で運んでいた苗や鉢の運搬を台車へ変更したり、暑さ対策のためにパラソルの下で作業が行えるようにするなど、業務改善に向けた配慮も従業員から好評を得ており、女性従業員を中心とした安定雇用に繋がっている。

審査委員の声

アジサイとシクラメンに特化し、オリジナル品種を多く持つアジサイは輸出もおこなっている。両親が築いてきた技術を受け継ぎつつ、2017年に経営者となった娘さん夫婦は新しい時代に即した生産管理、労務管理にも乗り出している。先代の頃からの熟練のパートに加え、若い世代のパートが加わるなど幅広い年齢のスタッフを抱えていることは、今後の事業発展の大きな支えになるだろう。